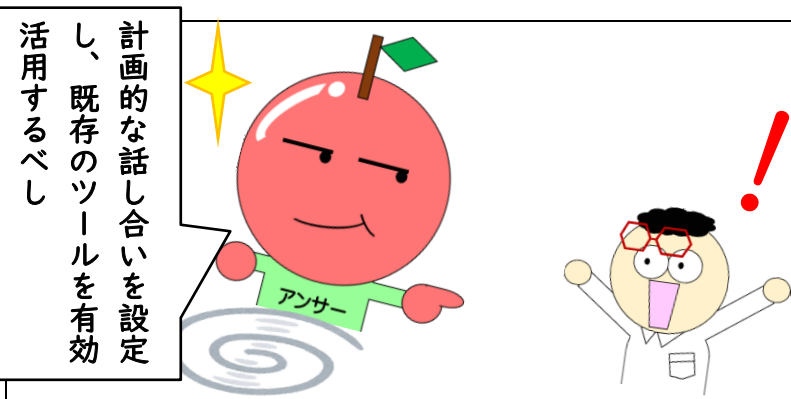
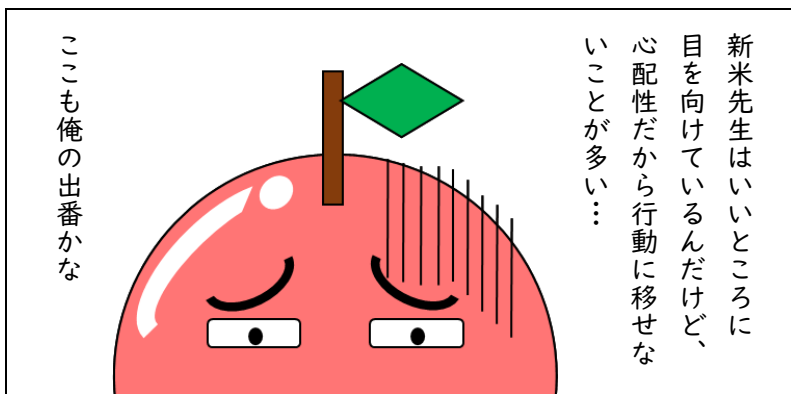
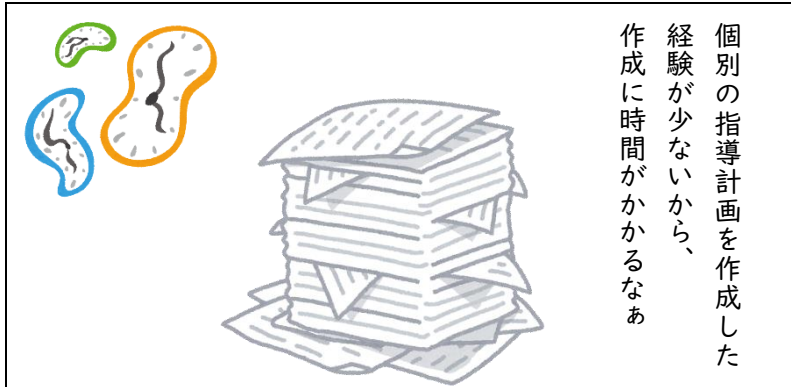


Q23. 個別の指導計画は、複数の教員で作成したほうがよいと思いますが、なかなか時間の確保が難しいです…。



計画的な話し合いを設定する

- 個別の指導計画の作成の効率化を目指し、具体的な検討の日程を年間行事予定や月別行事予定に記載してもらいます。
- 個別の指導計画の作成や見直しに係る作業は、全て担任が行うのではなく、特別支援教育コーディネーター等と役割分担して進めます。

個別の指導計画の作成には、多くの時間が費やされるため、複数の教員が集まって作成するのは難しいと感じている方が多いのではないのでしょうか。個別の指導計画を担当が作成する場合でも、複数の教員で作成する場合でも、作成した個別の指導計画をみんなで読み合わせたり、確認したりすることが大切です。読み合わせは、誤字脱字や内容のチェックだけではなく、子供一人一人の実態・目標・指導内容等を共通理解し、指導方針を検討・確認することで、授業や生活場面での一貫した指導につながります。例えば、年度初めに個別の指導計画の見直し日を設定することも考えられます。年間の予定に組み込まれていることで、担任以外の教員への参加を呼びかけやすく、学年を超えた教員の参加も見込まれます。

このように、個別の指導計画を複数の教員で作成したり、見直したりする体制を構築するためには、校内での様々な調整が必要になります。そのため、特別支援教育コーディネーター等と役割分担して、作業の効率化を図っていきましょう。



既存のツールを活用する

- 個別の指導計画における「計画－実践－評価－改善」という一連のサイクルにおいて、既存のツールを関連付けて活用していきましょう。

個別の指導計画の作成（「計画」の段階）では、既存の各種ツールを関連させ、活用することが大切です。下表は、その一例です。

そして、「評価」の段階においても、これらのツールを活用することで、子供の変容を捉えやすくなります。そうすることで、指導・支援の一貫性や作業の効率化が期待できます。

項目	活用が想定されるツール
実態把握	健康診断の記録、連絡帳、面談の記録、アセスメントの結果、個別の指導計画（前年度）、個別の教育支援計画
目標設定	個別の指導計画（前年度）、個別の教育支援計画
具体的な手立て	各教科等の年間指導計画、日々の実践の評価

【文献】神奈川県立総合教育センター（2016）：個別教育計画活用ケースブック。

よく一緒に読まれている Q

Q24 「発達検査や知能検査を実施した経験はありませんが、実態把握はできるのでしょうか？」

Q25 「個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…。」

Q26 「どのような指導・支援の手立てが効果的なのか判断できません。個別の指導計画にどのように書いたらよいのでしょうか？」

[目次に戻る](#)